

## 前回研究会までの整理

ペットボトルを始めとした容器包装のリユースに係る今後の検討について  
(本研究会第7回(平成21年7月30日)資料2)

### 1. 今後の検討の方向性

- ペットボトルのリユースについては、「ペットボトルリユース実証実験結果の取りまとめ」に基づき、クローズドシステムと同様に高い回収率が期待できる業務用のペットボトルについて、導入可能性に関する検討を行う必要がある。
- また、今回の実証実験結果を踏まえ、ペットボトル以外の容器包装のリユースについても、すでに実施されている取組の検証やリユースシステムの導入可能分野等に関して、一定の整理をする必要があると考えられる。
- ただし、業務用の容器包装の使用・排出実態については実態把握が十分でないことから、用途別(一般消費者向けか料飲店等での業務用か、飲料用かその他の用途か等)や素材別(ガラス、PET、その他のプラスチック等)に、ワンウェイかリユースか等を含め容器の使用・排出実態を整理する必要がある。その際、導入に当たっての課題と考えられる事項(商品供給面、容器の共通規格や輸送用のプラスチックケース(P箱)、回収体制等)をあわせて分析すべきである。
- さらに、消費者アンケートにより、リユースが環境負荷削減に効果を有することの理解が進めばリユースに係る消費者の受容性が高まることが伺えたことから、消費者がリターナブル容器を選択できる場面等において、こうした啓発を行い、行動の変化につながるのかの検証をさらに行うことが重要と考えられる。

### 2. 具体的な検討内容

- 業務用のペットボトルについて、リターナブルペットボトルの導入可能性を検討するため、料飲店等における飲料容器の使用実態に係るサンプル調査、アンケート調査等を実施する。
- ペットボトル以外の容器包装について、用途(一般消費者向けか料飲店等での業務用か、飲料用かその他の用途か等)や素材(ガラス、PET、その他のプラスチック等)等に関する小売店におけるサンプル調査や企業・消費者に対するアンケート調査を実施し、容器の使用・排出実態を整理する。
- 消費者がリターナブル容器を選択できる場面として、例えばマイボトルに着目し、各主体を巻き込み広く普及啓発を行い、普及啓発の効果について検証する。